環境経済・政策論（IEE.B531）

第 3Q～第 4Q　水曜日　9:00-10:30　／　W931（大岡山西 9 号館 3 階）

講義の概要とねらい　地球温暖化問題を対象に、そのメカニズムや様々な影響、影響を抑えるための適応策や温室効果ガス排出量を削減するための緩和策について、最新の知見を含めて説明するとともに、これまでのわが国における取り組みについて紹介する。また、応用一般均衡モデルを用いて、緩和策の導入による経済活動への影響の評価について、演習を通じて会得し、低炭素社会の実現に向けた取り組みについて議論するとともに、これからの温暖化対策について議論を行う。

到達目標　地球温暖化問題を中心に、環境問題の科学からのアプローチと、問題解決に向けた政策からのアプローチのそれぞれにおける役割や関係を理解するとともに、科学が環境政策においてどのように貢献できるかについて理解を深めることが本講義の到達目標である。さらに、応用一般均衡モデルのプログラミングを通じて、各自が検討する環境政策の定量的な評価を行うとともに、それを実現するための手段について検討することも到達目標である。

キーワード　環境政策、地球温暖化、緩和策と適応策、政策と科学、応用一般均衡モデル

学生が身につける力　国際的教養力・専門力・実践力又は解決力・コミュニケーション力・課題設定力

授業の進め方　各回のトピックを、資料をもとに説明する。また、環境問題の設定や解決に向けた評価については、学生によるプレゼンを通じて議論を深める。

講義計画

10/3　第 1 回　地球温暖化問題の科学と政策：
気候変動の科学について理解する。

10/10 第 2 回　地球温暖化の緩和策：
緩和策として必要な取り組みを理解する。

10/17 第 3 回　わが国における緩和策のあゆみ：
わが国で大幅削減に向けた取り組みと見通しを理解する。

10/24 第 4 回　モデルと政策：
政策におけるモデルの役割について理解する。

10/31 第 5 回　応用一般均衡モデル(1) データ：
応用一般均衡モデルの開発に必要なデータを作成する。

11/7　第 6 回　休講

11/14 第 7 回　応用一般均衡モデル(2) 生産者行動と消費者行動：
【プログラミング演習】生産者と消費者の行動を定式化する。

12/5　第 8 回　応用一般均衡モデル(3) 応用一般均衡モデルの理論：
生産者と消費者の行動から、応用一般均衡モデルを解く。

12/12 第 9 回　応用一般均衡モデル(4) 簡易な応用一般均衡モデルのプログラミング：
【プログラミング演習】データをもとに、簡易な応用一般均衡モデルの作成とシミュレーションを行う。

12/19 第 10 回 応用一般均衡モデル(5) 応用一般均衡モデルの拡張：
【プログラミング演習】拡張された応用一般均衡モデルのプログラミングを行う。

12/26 第 11 回 応用一般均衡モデル(6) 応用一般均衡モデルによる緩和策の評価：
【プログラミング演習】温暖化問題を応用一般均衡モデルで解く。

1/9　第 12 回 温暖化政策の評価（プレゼンテーション）：
【発表演習】分析結果を共有し、課題を明らかにする。

1/16　第 13 回 経済発展と環境問題：
環境クズネッツ曲線やポーター仮説など環境と経済の関係についての分析例を理解する。

1/23　第 14 回 持続可能な社会の系譜：
持続可能な発展について定義を理解する。

1/30　第 15 回 長期の環境政策の実現に向けて（プレゼンテーション）：

【発表演習】長期的な環境保全に向けた施策を検討し、課題を明らかにする。

教科書　内容が多岐にわたるため、各回において講義資料等を提供する。

成績評価の基準及び方法　各回で出される課題のレポート（30%）やプレゼン（40%）、最終レポート（30%）によって評価する。

関連する科目　地球環境と経済発展のモデリング（IEE.B530）

履修の条件（知識・技能・履修済科目等）　マクロ経済学及びミクロ経済学の基礎的な知識を有すること。

【プログラミング演習】と書かれた回では、ノート PC を持参のこと。詳細は 10 月 31 日に説明する。

連絡先（メール）　増井利彦 特定教授（masui@nies.go.jp）

オフィスアワー　授業開講日の授業前後の時間帯は教員が研究室に在室。普段はつくばの国立環境研究所にいるため連絡はメールで行うこと。